

第98回未来医療セミナー

2017 7/12 | 水 | 18:00~19:00

大阪大学吹田キャンパス

最先端医療イノベーションセンター1F マルチメディアホール 情報交換会(セミナー終了後 1Fホワイエ)

BNCTの現状と今後の展開

モデレーター

金田 安史

大阪大学大学院医学系研究科

BNCT用ホウ素薬剤の事業化



浅野 智之

ステラファーマ株式会社
代表取締役社長

BNCTは ^{10}B -ホウ素と熱中性子間の捕捉反応を原理とする集学的がん治療法の一つです。当社はBNCTに不可欠な高純度濃縮 ^{10}B -ホウ素の大量製造や薬剤開発技術を基盤にしたBNCTの要素技術開発を、産学官連携を強化して推進してきました。現在、当社のホウ素製剤SPM-011による再発悪性神経腫および頭頸部癌を対象とした第II相治験を実施しています。本講演では、世界初の薬事承認取得を目指したBNCT事業化の課題と展望について紹介します。

BNCT用ホウ素化合物の研究開発

— 歩みと展望 —



切畑 光統

大阪府立大学研究推進機構BNCT研究センター
客員教授 名誉教授

G. L. Locher による原理提唱から80余年を経て、BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)はようやく実現の時を迎えようとしています。非侵襲ながん治療であるBNCTの要素技術の中で、がん細胞に選択集積する ^{10}B -ホウ素化合物はBNCTの成否を分ける基盤要素であり、低分子から高分子に渡る多様なホウ素化合物がこれまでに報告されています。本講演では、ホウ素化合物開発の歩みを概観すると共に、その具備すべき性質と課題、将来展望等について述べます。

主催：大阪大学大学院医学系研究科

共催：未来医療交流会

橋渡し研究戦略的推進プログラム
大阪大学「戦略的TR推進による自立循環型新規医療創出拠点の実現」

後援：大阪大学医学部附属病院 未来医療センター

お問い合わせ

大阪大学医学部附属病院未来医療センター ctr.osakauniv@dmf.med.osaka-u.ac.jp <http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp>

障がいのある方など、特別な配慮が必要な場合は、事前にご連絡ください。